平成２９年度　卒業証書・学位記授与式　式辞

いつまでも降り続く大雪を見ながら、終わりのないように思えた今年の冬でしたが、ようやく別れを告げられるような気がしています。ここ十勝の肥沃な大地にも春の兆しが見え始めてまいりました。４月になれば遅かった北の地に再び眩（まばゆ）いばかりの緑が色鮮やかに芽生え始めることになるでしょう。

さて、この良き日に大谷学園連合会会計・荒川　清和（しょうわ）様をはじめとし、多くの御来賓の方々をお迎えして、平成２９年度帯広大谷短期大学第５７回卒業証書・学位記授与式を挙行できますことは、私ども帯広大谷短期大学関係者にとりまして、誠に喜ばしいことであります。

この度卒業を許可された地域教養学科３２名、生活科学科栄養士課程１６名、社会福祉科子ども福祉専攻５０名、同介護福祉専攻２１名、合計１１９名の学生諸君、御卒業おめでとうございます。皆さんはそれぞれ学科専攻の所定の単位を取得し、本日ここに卒業というハレの舞台に臨むことができました。二年間の皆さんのたゆまぬ努力に対し、心より敬意を表するとともに、お祝いを申し上げたいと思います。

今時代は大きく変わりつつあります。少子高齢化が叫ばれて久しいなか、それでもあまり実感が湧かなかったこれらの諸問題が実際に鎌首をもたげて私たちの前に出現した、そんな印象を持っています。日本の総人口が２１１０年、今から約９０年後には３分の１になってしまうという統計も当てにならない数字とは言えないようです。みなさんの次の世代がまさにそんな大変な時代に直面することになります。人工知能（ＡＩ）が進展し、世の中は私たちが生きている現在とはかけ離れた、想像だにできない社会になっていることでしょう。おそらく今私たちが常識として有している価値観も大きく変貌し、今の時代は古き歴史として認識されることになるのだと思います。それは仕方のないことなのかもしれません。しかし、願わくはその時代に生きている人たちが心豊かに幸せな人生を送ってほしいと思

います。いま在る仕事もかなり淘汰され、機械化がますます進むでしょう。しかし人間の本来あるべき理想の姿が果たしてその時しっかり意識されているのでしょうか。本学の建学の精神は「天いなるいのちに目覚め、人間として生きる喜びを見出すこと」です。そこにこそ豊かな人生が広がっていくのだ、そんな風に理解ができましょう。どんな時代でも、そこに在る多くの自分以外の「いのち」までも私たちは尊んでいくべきなのです。つまりは他者との関係性だけはどんな時代になっても大きな課題として私たちに突きつけられているのだと思うのです。だからこそ、みなさんが「建学の精神」に基づいて、本学で学んだ2年間は実に大きな意義を持っているとここで断言しておきたいと思います。みなさんの人生の、とある一場面で必ずや自他の「いのち」の尊さの問題、他者との関わり方の問題など、岐路に立たされる時がくるはずです。どうか、その時には短大で学んだこの精神を思いおこし、最適な道を選び、堂々とそして誠実に歩んでいただきたいと思います。

ところで、この機会にこれから社会に出ていかれる皆さんにお話ししたいことがあります。２００８年に出版された「日本で一番大切にしたい会社」の中で取り上げられたチョークを作る８０人ほどの小さな会社・日本理化学工業の大山泰弘社長がその経営の理念としていた言葉です。ちなみに従業員数７割を超える労働者が知的障害者で占められている会社でもあります。彼は小松茂美氏の著書「虹色のチョーク」の中でこう語っています。「人間の究極の幸せは、人に愛されること、人に褒められること、人の役に立つこと、人から必要とされること、の四つと言われる」といい、「働くことによって愛以外の３つの幸せは得られる」とします。そしてこの会社ではその得難い「愛」までも得られると思う」。こんな風に語っているのです。

多様性を認めあう社会を作ることが叫ばれて久しいのですが、実際はなかなか大変なことだと思います。人は他者と区別することでしか自分を確認できないからであります。あるいは差異の中でしか自己確認できない寂しい存在が、何を隠そうわたくしたち人間なのだといっても良いのでしょう。だからこそ、日本理化学工業の取り組みは素晴らしいのです。障害を持った人々とともに労働の楽しさや苦しさを分かち合い、励まし合う。お互いに学び合い、そして尊敬し合う。そこに「愛」も生まれます。我々は次の社会の可能性、すなわち「共生社会」の理想形をこの会社に見ることができそうに感じます。卒業生の皆さんにはどうか、人と人が助け合い、学び合うことでどこ

までも伸びていってほしいと願っていますし、それぞれに「愛」に溢れた幸せな人生を過ごしてもらいと思っています。

本日こんなに多くの御来賓の方々、そして保護者の皆さんがお祝いに駆けつけてくれました。このような形で門出を祝福してもらえるのは、本当にありがたいことです。思えば、皆さんは色々な人たちの支えがあって始めてこの場に立っているはずです。皆さんのことを本気で考えてくれた人たちが数多くいたという事実に思いを馳せてください。感謝してください。そしてそのことに、幸せを感じてください。その感性があれば、今後の皆さんの人生は間違いなく豊かになっていく、と思います。今、人間社会では、多くの大事な「もの」を次世代につなげていくことの重要性が問われていると思います。今皆さんが受けた幸せや恩義は、次世代に返していかなければなりません。自分たちの子供や孫、その他数多くの次に続く若者たちにお返しをすることで、皆さんは人としての義務を果たすことになるのだと思っています。

保護者の皆様にも一言お祝いを申し上げます。いろいろと大変なことが多かったことと推察いたします。しかし、この日の学生諸君のこの晴れ姿をご覧いただき、万感胸に迫るものがあるのでは、と思っています。卒業生は単なる知識以外にも2年間で数多くのことを学びました。「生きる力」も獲得したはずです。社会の荒波にも耐えうるだけの「足腰の強さ」を自分のものとしたのだ、と信じて疑いません。どうか、保護者の皆様におかれましても、安心してこれからの彼ら彼女たちを見守ってください。ただ、そうはいっても、やはり人生です。予定調和で終わるはずもありません。いろいろな場面で、どうしても先達のアドバイスの必要な時が必ずやってきます。どうか、その時は優しい手を差し伸べてくださいますよう、お願い申し上げます。

今、地域社会において若者はとても大切で、期待される存在です。これからの時代を作り上げていく旗手になるからです。どうか、卒業生諸君は地域社会のリーダーになるべく、周囲の期待をしっかりと受け止め、帯広大谷短大で学んだ誇りを胸に秘め、元気よく社会に飛び出していってください。私ども教職員は、全員皆さんの味方です。安心してください。そして、何か辛いことがあったら愚痴でもいいに戻ってきてください。

最後になりましたが、本日お集まりいただきましたご来賓、そして保護者の皆様、そしてなにより卒業生諸君のご健勝とご活躍をお祈りいたしまして、私の式辞といたします。

平成３０年３月１６日

帯広大谷短期大学学長　　田中　厚一